

ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、ディスクロージャー誌「117期営業の中間ご報告(2024年4月1日~2024年9月30日)」を作成いたしましたので、ご高覧いただきたいと存じます。

本誌では、中間決算の概要や業務内容、地域貢献に関する取組み状況などをまとめており、当行について一層のご理解を深めていただければ幸いです。

上半期の日本経済は、社会経済活動の正常化により、個人消費や一部設備投資に回復の兆しが見られます。しかし、物価高騰が依然として家計を圧迫しているほか、金融政策変更に伴う資金調達コストの上昇が企業経営に負担となり、経済の先行きは依然として不透明な状況です。

鹿児島県経済におきましても、観光業等が緩やかに回復しているものの、基幹産業である一次産業では原材料価格の高騰と価格転嫁の遅れによる収益悪化が課題となっています。また、少子高齢化による労働力不足や、自然災害のリスク、デジタル化の進展の遅れも懸念されています。

このような環境のもと、私ども南日本銀行グループは、取引先事業者に対して迅速な資金繰り支援を行うとともに、WIN-WINネット業務(新販路開拓支援業務)による本業支援などの経営改善支援等に取組んでまいりました。また、金融環境の変化に伴い、お客さまの預金金利及び貸出金利の基準となる短期プライムレートの引上げを実施しました。

今後も、DX支援やオペレーション改善支援を強化し、お取引先のさまざまなニーズにきめ細やかに応える金融サービスを提供することで、地域経済の活性化に尽力してまいります。

第1次中期経営計画で目指す姿は、「地域・お取引先の課題解決ニーズに応え、安定的な収益基盤を確保するとともに、当行の持続可能なビジネスモデルを一層進展させる」ことです。将来の成長に向けた大胆な構造改革を行いながら、「自発的に考えて行動できる人材」を育成することを中心に据え、変化を恐れず様々な施策へ挑戦することで、環境の変化に柔軟に対応できる組織にしていきたいと考えています。

引き続き『地域に責任を持つ“真の金融機関”』として、お取引先の課題解決ニーズに応えるとともに、地域の持続可能な社会の実現を目指してまいります。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



2025年1月
取締役頭取 田中 暁爾きょうじ